

悲しみよこんにちは (1957)

BONJOUR TRISTESSE

メディア	映画
ジャンル	ドラマ ロマン스
製作国	イギリス/アメリカ
色彩	Color
時間	94分
初公開日	1958/04/29
公開情報	COL
リバイバル	1976/08 [I P] 1980/05 [I P]

【キャッチコピー】

セシルは17才——リビエラの爽やかな風と、恋の悲しみに微笑みをかわす フランソワーズ・サガンのベストセラー完璧の映画化！（リバイバル時）

【解説】

ソウル・バスによるタイトルデザインがとりわけスマートなO・プレミンジャー作品。わずか18歳で書いたこの原作でフランスだけでなく、一躍世界の売れっ子作家になったF・サガン。そのスノビズムがニーヴンやカーといったシックさを体現する役者たちの登用で、かなり上手く消化されている。そして、言わずもがな、セシル・カットの流行を生んだセバーグのボーイッシュな魅力。17歳のブルジョアの少女が父レイモンに新たに出来た恋人アンヌ（カー）が母となる現実を受容できず、それまでの若い愛人エルザ（ドモンジョ）と共謀して、父と彼女との仲をアンヌに見せつけて別れさせようとする。ところが絶望に車を駆って去るアンヌは運転を誤って崖から落ちて死んでしまう。一年前の出来事だった。今は陽光明るい夏のリヴィエラにいても、少女の世界は晴れることなどないと思われる惨めな悲しみに満ちていた。灰色の現在は白黒、過去は眩いテクニカラーで描かれる。G・オーリックの音楽、グレコの主題歌とたっぷりフレンチ・ムードに浸れるハリウッド（米英合作）映画だ。

【クレジット】

監督	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger
製作	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger
原作	フランソワーズ・サガン	Francoise Sagan
脚本	アーサー・ローレンツ	Arthur Laurents
撮影	ジョルジュ・ペリナール	Georges Perinal
音楽	ジョルジュ・オーリック	Georges Auric
タイトルデザイン	ソウル・バス	Saul Bass
出演	ジーン・セバーグ	Jean Seberg
	デボラ・カー	Deborah Kerr
	デヴィッド・ニーヴン	David Niven
	ミレーヌ・ドモンジョ	Mylene Demongeot
	ジェフリー・ホーン	Geoffrey Horne
	ジュリエット・グレコ	Juliette Greco
	ワルテル・キアーリ	Walter Chiari